



自民と日本維新の連立への考察

令和7年10月20日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

これは小泉純一郎と大前研一の連合であり、日銀金利の引き上げとともに、新しい日本への移行を提案するものであるはずである。

これらはグローバリズムへの参加であり、世界の枠組みへの参加である。そのとき日本の既存社会の完全な崩壊は与えられるものとする。

これらは社会の完全な2分化である。未来という新たな選択はすでに与えられたものであり、グローバルスタンダードが唯一の選択となる。

これらは高市総裁が自らの施策を求めることに対して現実の大きな要求が与えられることを意味するものである。

これら最も大きな葛藤は日本が世界の現実の前に屈するものであるはずである。

これら近未来への正しい考察は、現実への正しい対応を与えるものである。

これらがグローバリズムという潮流への参加であることは日本の既存現実が完全に崩壊することを意味するものである。

また長期国債金の高騰や円安などは、明らかに日本への脅しであり、これら現実への服従は日本が行った選択であるはずである。

また中国への関税の提示などは、日本の自民総裁選における中国の関与を理解させるものであるはずである。

これにおいて第3のカードは、中国の日本への関与であり、多様なハッカーが最近企業へのハッキングを行うことは今後それらが大幅に拡大することを予測させるものである。

これらは日本を取り巻く新たな環境であり、変化という新たな未来は不可避の現実であると考えられる。そのとき真実を知ることは唯一正しい選択を可能とできるのである。